

2024年11月9日（土）クラブ交流会報告（後半）

場所：泉陽会館2階

参加者：来賓9名、卒業生27名、役員12名

クラブ内訳：運動部12、文化部3

【第一部】後半15:30～16:30の報告

司会進行：川端満（27期：組織委員会）

□クラブ連絡会議立ち上げの提案

司会：川端より、卒業生クラブ相互の交流の形態として、「クラブ連絡会議」の立ち上げを提案し参加の皆さんの意見を求めました。

□参加いただいた方の発言を順に紹介（名前はイニシャルで表示）

- 発言内容は文字起こしを行い
 - ①文の冗長さを解消
 - ②口語的な言い回しを修正しています。

- 本文の最後に、発言のポイントのまとめを追記しました

・水泳部 34期 K様

水泳部は泉泳会という名前で、OB OG会をやっています。まず課題ですが、若い世代がなかなか参加してくれない状況です。ただOBの中では、泉泳会はまだつながってるほうかなと思います。第一回目の時も発表させていただきました。

コロナで今ちょっと途切れてますけど、会報とかも以前は発行していたり、先日も60周年記念ということで、同窓会のパーティーをやらせていただきました。具体的に困ってるというか、ま、もちろんその勧誘も困ってますけど、お金の面では、大体年間20万円弱ぐらいの会費でなんとか、できる範囲で回してます。

先ほど校長先生からもお話がありましたが、水泳部は近年活躍しており、遠征費などの支援を行っています。この支援については、OB会や泉陽会、そして学校からも一部資金が出されています。当会からも少額ながら支援していますが、できれば支援の仕組みをより一貫性のあるものにしたいと考えています。

具体的には、水泳部だけに限らず、例えば近畿大会への遠征に対して「一律いくら支援する」といった形で、支援内容を明確にルール化し、システムティックに管理できるようにするのが良いのではないかと考えています。

また、細かな支援金額の割り振り（OB会や泉陽会がそれぞれいくら支援するかなど）は、別途具体的に詰めれば良いと考えています。ただ、こうしたお金の管理に関しては、できればOB会にお任せしたいと考えています。

例えば、集金の代行について業者の利用を検討したこともありますが、現状では個人名義で口座を設けるのが難しい状況です。これを改善するために、OB会内で専用の口座を開設できるような仕組みを整えることをお願いしたいです。

具体的には、法人化も視野に入れていただくことで、同窓会やクラブの役員にかかる事務的な負担を軽減できると考えています。

さらに、郵送物の送付先についても、個人宅ではなくOB会の住所や私書箱を利用する形にすると、役員の負担軽減につながると思います。こうした仕組みを整えることで、まずは運営を円滑に進めるための足掛かりができるのではないのでしょうか。

以上、あまり大きな話にせず、まずはこうした点からご検討いただければと思います。

・FLD（語学部）20期 執行委員 A様

執行委員を務めているAと申します。現在、財務担当をしております。正直なところ、会費をもっと多くの方に納めていただければ、今のような資金面での問題は起こらないと思うのですが、毎年会費を払ってくださる方は1500人ほどで、2000人には達していない状況です。

資金の話題になると、多くの方にとって少し難しいテーマに感じられるのかもしれませんが、このような状況は私たちだけでなく、他の高校でも同じような問題を抱えているようです。そのため、「今後、同窓会としての活動をどうしていくか」という議論は避けられません。

今日の集まりに参加して改めて感じたことがあります。私は現役時代、英語のクラブに所属しており、当時はとても活発に活動していました。しかし、今ではそのクラブ自体がなくなってしまい、今回の集まりに参加して少し場違いな印象を受けました。

「昔を懐かしむ会」という趣旨であれば参加しやすいのですが、地域ごとの集まりや活動に参加となると、現在の住まいが異なることもあり、難しいと感じます。

地域を越えた形で、同窓会活動に特別な思い入れを持つ人がいるかもしれませんが、それを広げるのは難しいのではないのでしょうか。

むしろ、今在校している生徒の保護者や、地域に密着した活動がもっと活発になるべきではないかと考えています。それぞれの生活圏が異なる現在、特定の地域に特別な思いを持つことは難しいと思います。

以上の点から、今日の会に参加したこと自体、少し場違いだったように感じました。

・フォークソング部 N様

「私は、かつて5年しか存続しなかったマイナーなフォークソング部のOBです。今の語学部のように、私の所属していた部活は既に学校にはありません。

しかし、先ほどの校長先生の説明で、さまざまなクラブ活動の様子を聞き、母校への愛着が深まりました。現役生の皆さんの活気ある活動を見ると、微笑ましい気持ちとともに、自分も何か貢献したいという気持ちが湧きます。

ただ、お金を出すことに対して、抵抗を感じる方もいらっしゃると思います。そこで、同窓会のような連絡会を設け、現在の学校の様子や部活の情報を共有することで、母校への理解を深めてもらい、寄付を検討してくださる方が増えるのではないかと考えます。

私自身も、以前は同窓会に参加していませんでしたが、第1回のクラブ交流会に参加したことをきっかけに、同窓会の活動に貢献したいと思うようになりました。

このように、様々な情報共有の機会を増やすことで、母校への愛着を深め、寄付につながる可能性があると考えています。これは、地道な活動かもしれませんが、大切なことだと思います。

・野球部 23期 F様

私あの23期で野球部なんですけど、今全てのこの課題を解決する方法として一番速いのは野球部が甲子園に出ることです。あの三国丘高校が、春出場して5000万円集まったようです。

また先ほどの地域スポーツクラブの話、それも話題になると絶対集まってくるから、そういう事が結局、動かしやすいです。サッカー部も正月の大会をテレビでやっています。今テレビの時代ではないと言いますが、やっぱり人は集まる、お金は集まると思います。

野球部は今年の秋は4回戦で大阪学院大学高校に負けたんですけど、ほんで我々応援して3対0で負けたんですけど、去年のチームの方がよかったんですけど、で、野球は、やっぱりピッチャーがよかったらそこそこできて、その大阪学院大学高校は近畿大会行ってます。

大阪桐蔭と履正社が負けており、来年の春は甲子園大阪府なしで、今大阪府の高校野球はレベルがちょっと下がってるのかもしれない。

ちなみに、泉陽の野球部監督は令和元年に西宮の「福男」に選ばれた方で、とても努力されている方です。ただ、高校野球連盟（高野連）の規定が厳しく、中学生のスカウト問題などが絡むため、部活動の運営には制約が多いのが現状です。

私自身について少し話しますが、若い頃に商売で失敗した経験があり、今は落ち着いて同窓会活動などに取り組める環境にあります。23期の同窓会は60歳の時に200人以上が集まるほど盛況で、現在も5年に2回程度の頻度で開催しています。ただ、年齢を重ねると参加者数が徐々に減っていくのが実情です。

ちなみに、私の子ども2人も泉陽高校の卒業生ですが、同窓会費はこれまで一度も払っていません。次回からは3人分まとめて支払います。働き盛りの50代は生活に

追われて、こうした活動に目を向けにくいものですが、リタイア後には関心が高まるのだと思います。

その意味で、目立った成果を挙げることが重要です。例えば、水泳部がオリンピックに出場するなど、各部が活躍してスポットライトを浴びるような結果を出せればと思います。OBが顔を出すだけでも励みになるでしょう。

最後に、私が貢献していることといえば、ロト6を買っているくらいです（笑）

・陸上部 21期 I様

私は第21期生で、以前同窓会会長を務めていました。今回のクラブ交流会の企画を提案したのは私ですが、ここにおられるK先生にもご尽力いただきました。K先生は元泉陽高校の校長であり、三国丘高校の卒業生でもあります。

三国丘高校では、先生ご自身がハンドボール部で熱心に活動され、その後、体育教師になられたという背景があります。その三国丘高校には「三丘体育会」という体育系のクラブが集まる組織があり、非常に活発な活動を行っていると聞きました。

それを参考に、泉陽高校のクラブ活動について考えたとき、例えば野球部、バスケットボール部、バレーボール部、サッカー部、水泳部などは、私が同窓会会長をしていた頃からOB会が活発でした。

しかし、その他のクラブは活動が少ない、あるいは縦のつながりが薄いと感じました。例えば、私が所属していた陸上部では、上の世代の方々とつながりが途中で途切れてしまい、継続的な関係が築けていない状況でした。

そこで、このような縦のつながりを各クラブで再構築し、さらにはクラブ間でもつながりを広げていけたらと思っています。単なる同期内での交流にとどまらず、「野球部」「陸上部」「水泳部」といった枠を超えて交流が生まれることで、同窓会全体の活動がもっと活発になると考えています。その第一歩として今回の交流会を開催しました。

今回、私から声をかけてハンドボール部の方にも参加いただきました。他のクラブでも、まだ十分に上下のつながりができていないところがあるかと思っています。例えば硬式テニス部や柔道部、剣道部なども、今後ぜひこのような場に参加していただければと思います。そうすることで、泉陽高校同窓会全体の雰囲気も、より積極的なものになるはずです。

また、同窓会が活発化すれば、会費の収入も増え、その資金を使って現役生や学校の活動を支援することも可能になるでしょう。ただ、コロナ禍で一時中断を余儀なくされたこともあり、今後は法人化なども視野に入れつつ、より安定した活動基盤を築くことが求められると感じています。

福井会長を中心に、現在サッカー部のOBが中心的に動いていただけていますが、他のクラブの方々にも積極的に同窓会活動に参加していただければ、同窓会全体の

雰囲気もさらに良くなるのではないのでしょうか。

最後になりますが、皆さんからいただけるご意見が多ければ多いほど、今後の活動をより具体的に進めることができると思います。ぜひ、どんな小さなことでも構いませんので、皆さんのアイデアをお聞かせください。今夜の懇親会でもご意見を伺いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

・常任顧問 K様

私は、前会長から名前を挙げていただきました常任顧問のKです。本日はハンドボール部の皆さんが来てくださり、とても嬉しいです。18期の方もいらっしゃって、忘年会でもお会いしましたね。本日は4名の方が参加されているとのこと、本当にありがたい限りです。

さて、少し前会長のご発言に水を差すようで恐縮ですが、本日執行部から提案された案は非常に素晴らしいものの、現実的にはいきなり実現するのは難しいと思います。私はこの後、自治会の会議があるため懇親会には参加できませんが、OB会に関して少し申し上げます。

例えば、私が以前在籍していた三国丘高校では、クラブのOB会費は毎年3000円払っていましたが、同窓会費は長らく支払っていませんでした。それでもある年齢の境に支払うようになった経験があります。このように、クラブのOB会が活発だからといって同窓会費の納入率が上がるとは限りません。多少の影響はあるでしょうが、過度な期待は禁物です。

また、今年3月にはI会長からお声がけいただき、ハンドボールの泉陽高校と三国丘高校の定期戦が復活しました。残念ながら雨で中止となり観戦できませんでしたが、個人的には泉陽高校の応援をしており、後輩に叱られたこともあります(笑)。

交流会の話に戻りますが、まずは会費を設定し、寄付を募ってどの程度集まるか試してみるべきです。その資金を活用し、次回以降の活動に生かしていくのが現実的でしょう。いきなり大きな組織化を目指すのは難しいと思います。

次回、第3回の交流会に向けては、今回参加していないOBクラブにも呼びかけてみてはいかがでしょうか。例えば今回卓球部の皆さんが多く参加されていたのが印象的でした。

また、現役のクラブがなく後輩がいない方でも参加されているケースもありました。こうした幅広い世代間交流を軸に、参加者同士が継続して集まり、健康に気を付けながら楽しめる場を作ることが大切だと思います。

さらに、各クラブが若い世代の縦のつながりを再構築する努力も必要です。懇親会ではぜひお互いの交流を深め、自分のクラブの連携を強化する方向で進んでいただければと思います。

驚いたことに、サッカー部では長居競技場を借り切って世代交流の大会を開催されたそうです。非常に素晴らしい取り組みですが、他のクラブが同じようについていく

のは難しい場合もあるでしょう。それぞれのペースで無理のない形で取り組んでいただければと思います。

また、野球部に関してですが、泉陽高校が甲子園に出るためには、地域との連携がカギになると考えます。例えば岐阜県の大垣北高校では、小中学生を対象に指導し、その子どもたちが高校で野球を続けたいと思うような環境作りをしています。こうした取り組みも参考になるのではないのでしょうか。

最後に、私が思うに、この交流会の第一の目的は参加者同士の交流を深めることです。その延長線上で現役生への支援を考えるのが理想的だと思います。皆さんが健康に感謝し、母校に何か恩返ししたいと思えるような流れが生まれれば、素晴らしい方向に進んでいけるのではないのでしょうか。

長々と失礼いたしました。ありがとうございました。

・バレー部 11期 N様

私たちは、現役チームへの支援金活動を継続して行っています。会報を発行する際には、現役チームの活動状況を掲載し、年間会費 2,000 円を振り込んでいただけるよう、振込用紙を同封して一生懸命集めています。

また、毎年行われている「三国高校との定期戦」の際にも、会費を集める取り組みを行っています。さらに、年に 1 回の総会や役員会、各期の代表者が集まる会合などでも、支援金集めを実施しています。

現時点では、引き続き現役チームへの支援金活動を続けてはいますが、今後、全体に十分な支援金を届けられるかどうかは、少し疑問な部分もあります。以上です。

・バレー部 45期 F様

バレー部 OB・OG 会「木蓮会」で会計監査を担当しております、45期の F です。本日は、イレギュラーな形で行った寄付金の集め方について、少し補足させていただきます。

昨年と今年、近畿大会への出場に際して寄付を募りました。昨年は急な対応だったため、LINE を活用し、手当たり次第に連絡を回す形を取りました。具体的には、PayPay の ID を案内し、「1 口 1,000 円から、いくらでも構いません」という形で協力をお願いしました。

一方、今年は事前に時間が取れたこともあり、近畿大会出場の寄付依頼をハガキで行いました。およそ 300~400 枚のハガキを送付したのですが、結果としては、昨年の LINE と PayPay を活用した方法の方が、コストもかからず、集まった金額も多かったという状況です。

ここからは私の推測ですが、1,000 円や 2,000 円程度の金額を寄付する場合、わざわざ

ざ郵便局に行って振り込むのは、30代～50代の方にとって時間的にも手間がかかるのではないかと思います。一方で、PayPayのような電子決済であれば、スマホから手軽に送金ができるため、よりスムーズに協力していただけたのではないかと感じています。

泉陽の卒業生であれば、1,000円や2,000円の寄付が難しいという方はほとんどいらっしゃらないと思います。ですので、今後、寄付金を集める際には、従来の銀行口座や郵便局の口座に加え、電子マネーやキャッシュレス決済の方法を併用することで、寄付額の増加が見込めるのではないかと考えております。以上、補足のご説明でした。

【発言のまとめ】

各クラブ共通の課題

1. 若い世代の参加率の低下
 - 多くのOB会で若い世代の参加が少なく、縦のつながりが途切れつつある。
2. 資金不足と会費納入率の低さ
 - 会費の納入率が低く、財政難が生じている。
3. 事務作業の負担
 - 会費の徴収や郵送物の管理が手作業中心で、役員の負担が大きい。「口座開設の難しさ」や寄付依頼の効率性の問題が浮上。
4. 組織運営の課題:
 - 法人化など、より安定した組織運営の仕組みが必要。
 - 会費の集金方法や資金管理について、効率的な方法を模索する必要がある。

ご提案事項

1. 支援金の仕組みのルール化
 - 「近畿大会出場時に一律いくら支援する」など、支援金の一貫したルールを設ける提案。
2. 集金・事務作業の効率化
 - 法人化を視野に入れた専用口座開設の提案や、PayPayなど電子決済を活用した寄付方法。
3. 情報共有の強化
 - 会報や同窓会サイトを通じて母校の近況を共有し、寄付や参加への関心を高める取り組み。
4. クラブ間・世代間の交流強化
 - 各クラブの縦のつながりを再構築し、クラブ間でも交流を広げていく。

5. 成功体験を基にした PR 活動

- 「甲子園出場」「全国大会優勝」などの目立つ成果を目指し、それを通じて寄付や参加を促進するアイデア。

第一部後半終了：このあと懇親会へ

【懇親会】17:00～19:30 の報告

司会進行：大浜誠一郎（29期：広報委員会）

場所：楓林閣堺店（2階）

参加人数：35名

- ・4テーブル（9名×3、8名×1）に着席し歓談
- ・途中、マイクを廻して発言を求めましたが、歓談が続きマイクでの発言はありませんでした。
- ・お開きでは、次回の交流会には、今回の参加者がそれぞれ2名の新しい人を連れて参加することを誓っていただきました

第2回クラブ交流会を終えて（14期 林 昌子）

- ・第一回クラブ交流会（令和元年6月2日）と今回の第2回運営のお手伝いと会に参加させていただきました。
- ・当初の不安をうちけすように2回ともに盛り上がりました。
- ・解散後、「よかった」「楽しかった」「次回も是非参加したい」と参加者のみなさんからの感想を受け、感動しました。
- ・「泉陽会」のみなさん今後もお支援お願いします。

追記：軟式野球部 3期 N様

今回の交流会には参加できませんでしたが、お手紙と現役当時の写真を送っていただきましたので次に掲載いたします。



軟式野球部
ベストナイン

堺市民体青年祭ニ於テ優勝ス。

対三田高校
一回戦
対市工 5A-2
二回戦
対堺市 5A-2
三回戦
対堺市 5A-2
四回戦
対堺市 5A-2

本校 5A-1-2-3-4

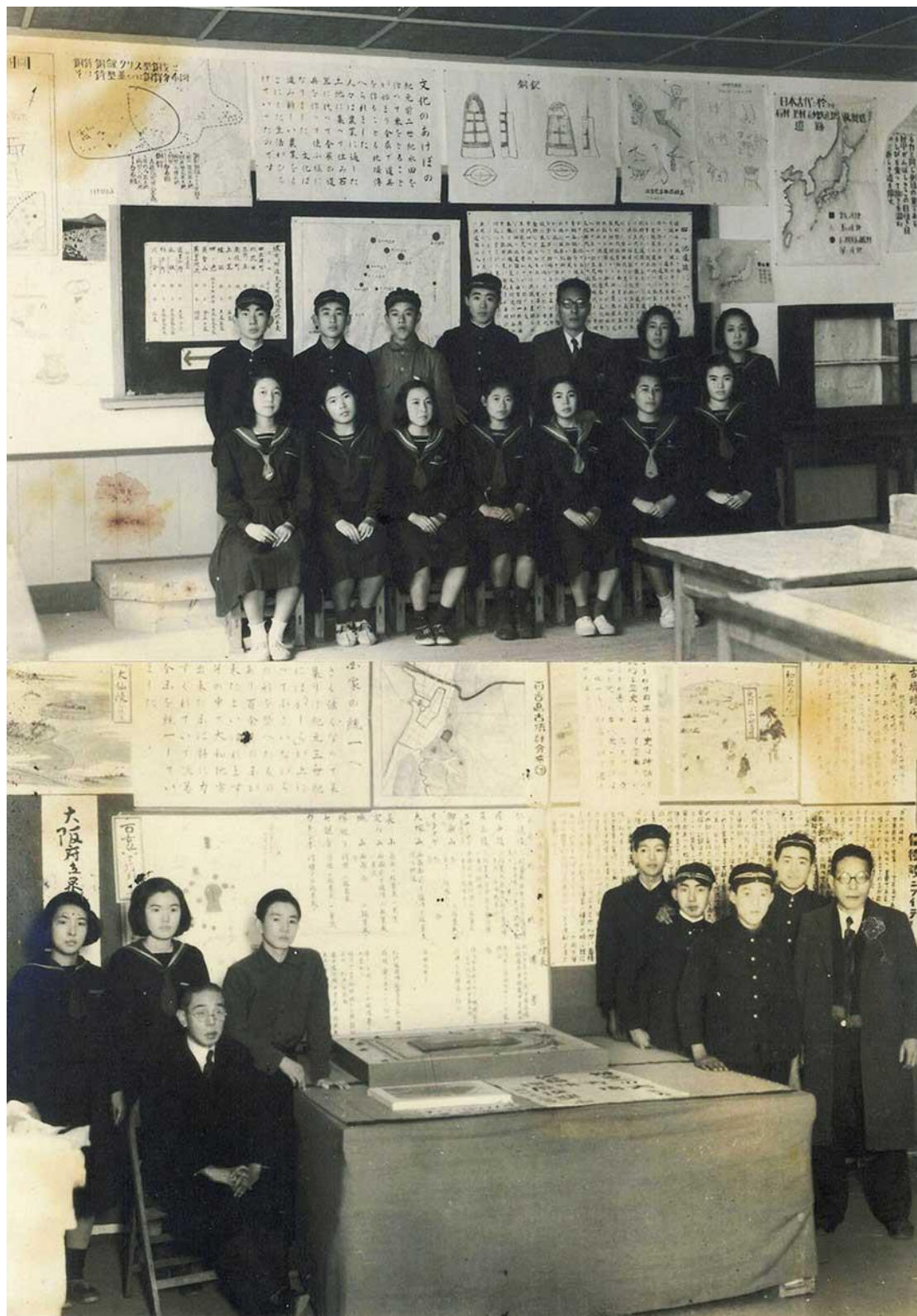
名开三
25 5 25 1

前列左ヨリ
佐藤三雄君・楠本彌君・上原洋一君
江口政幸君・中田一雄君

後
小川三雄君・三浦左衛門君・河合加賀君
長井中監君・内林先生
(写真)



史学クラブ



以上

作成：組織委員会 川端 満 (27期)